



SSHレターズ

長崎県立大村高等学校
～自ら気づき、考え、行動する～

1巻/16号 2019/7/19

いよいよ1年生のミニ課題探究、始まる！

7月11日(木)、1年生全員を対象にミニ課題探究のガイダンスを実施しました。特に、探究活動の肝となる「テーマ設定」について生徒は難しさを感じているようですが、このガイダンスでテーマ発見の演習に取り組んだことが、発想の方法が広げるヒントとなったようです。

【今後の大まかなスケジュール】

8月上旬までに：テーマ探し・決定
8月下旬：班決定 9月半ば：探究開始！

↓ 探究活動(実験・データの収集・
↓ ポスター製作・プレゼン練習)

2月：ポスター発表

【探究ジャンル】

- 1組 自然現象から不思議・問題を発見
(科学基礎と連動した科学探究)
- 2～8組 身近な不思議・不便の解明、改善
(科学・環境・健康・食・地域振興etc)

探究活動は、「調べ学習」ではありません。自らデータを収集・分析するのだという点を理解し、有意義な探究活動を展開して欲しいと思います。そして2年次へ繋げていきましょう。

◆SS探究Ⅰ：職業セミナー(1年全学科)

7月4日(木)、15の様々な職業人を講師として招き、各職業の魅力や世の中との関連性、ご自身の進路選択についてなど講演をしていただきました。生徒たちは、自分の興味・関心のある分野を選択し、2講座ずつ参加しました(裁判所は1つ)。今回ご協力いただいた職業は、①保育士②史料館学芸員③管理栄養士④産地直売所経営者⑤旅行会社代理店⑥航空会社⑦市役所⑧弁護士⑨裁判所⑩県庁環境政策課⑪工業技術⑫リハビリ関係⑬赤十字血液センター⑭看護師⑮薬剤師でした。社会の第1線で活躍されている方々からお話を伺い、職業の先にあるものを見る力、物事を今までとは違った視点から捉える力、自らの学びを身近な事象と結びつける姿勢なども学べたようです。今後のSSH活動や進路選択に繋がる貴重な機会となりました。



セミナーのようす

◆インフラさるく(2年文系希望者72名)

7月10日(水)、SS探究ⅡBの一環として、『第3回長崎街道インフラさるく in 大村』を実施しました。これは、高大官(国・県・市)民の連携による、インフラに着目した協働型の探究活動です。5月から取り組んできた活動ですが、第3回目の今回は、10名を越える講師の皆様に加え、11名の学生スタッフの皆様にご協力をいただきました。当日はあいにくの空模様となりフィールドワークの行程を一部変更しての実施となりましたが、インフラを手がかりとした探究活動を通じ、生徒のものの見方は大きく変容したと思います。また、自分を取り巻く社会との主体的なかわり方についても、多くのことを学ばせていただきました。インフラさるくで学んだことを、それぞれの班の課題探究に活かしていくことを確信しています。

第1部 講義

- 1「道路と橋について」
溝口正二郎氏(国土交通省)
- 2「橋について」
柳原浩二氏(長崎県県史振興局)
- 3「大村市の道路維持活動について」
田淵真也氏(大村市都市整備部道路課)
- 4「郡川の飛び石と福重橋の歴史」
上野盛夫氏(福重郷土史同好会)
- 5「松原宿活性化について」
村川一恵氏(松原宿活性化協議会)

質疑応答

第2部 フィールドワーク

- A班 長崎建設技術研究センター
講義、コンクリート破壊実習など
- B班 旧松屋旅館
展示品の見学と松原についての講話

第3部 振返り活動

振返り、4コマプレゼン作成・発表

